

[活動報告]

## 環太平洋研究図書館連合(PRRLA:Pacific Rim Research Libraries Alliance) 2023年総会参加報告

渡邊 愛子

### 1. PRRLAについて

#### 1.1 はじめに

2023年10月17日～21日に開催された環太平洋研究図書館連合(Pacific Rim Research Library Alliance 以下 PRRLA)の年次総会への参加について報告する。総会には、佐藤初美事務部長と筆者の2名で参加し、当館の取り組みについて筆者が事例報告を行った。

PRRLAは1997年にPRDLA (the Pacific Rim Digital Library Alliance)として発足して以来、毎年、総会を開催してきた。当館は、2016年にPRRLAに加盟後、2016年<sup>1</sup>から毎年総会に参加<sup>2</sup>し、職員の研修も兼ねて、2017年からは毎回当館の発表を行ってきた。しかし、2019年のソウル大会<sup>3</sup>以後、新型コロナウイルス感染症の流行のため、総会の開催が中断された。2022年は、ハワイ大学マノア校をホストとして、オンラインで開催され、当館は、オンライン視聴で参加した。なお、対面コミュニケーションの代わりに各館の紹介ビデオの提出が要請されたため、当館でも作成し提出した<sup>4</sup>。

本年は、中国広東省深圳市の中山大学深圳図書館を会場にして、4年ぶりの対面を含む、ハイブリッド開催となった<sup>5</sup>。42の参加館から、対面では、スタッフを含めて60名ほど、オンライン参加を含めてのべ90名が参加した<sup>6</sup>。中国国内、アメリカ、オーストラリア、韓国、香港、シンガポール、インドネ

シアなどから会場に集った参加者は、再会を喜び、質疑応答の時間だけでなく、食事や、移動中などにも、盛んに、意見交換、情報交換を行っていた。

#### 1.2 日程

公式日程は以下であった。筆者らは、17日に深圳に到着し、18,19日のプログラムに参加し、20日の見学は辞退して帰国した。

10月18日

午前 開会 基調講演 講演テーマ1 講演テーマ2  
午後 中山大学深圳図書館見学

10月19日

午前 講演テーマ3 講演テーマ4 事務連絡会議  
午後 南方科技大学図書館見学

10月20日

見学 中山大学广州南キャンパス図書館 広州図書館



図1 会場にて。佐藤事務部長(右から2人目)と筆者(左端)

1 佐々木 智穂「環太平洋研究図書館連合(PRRLA:Pacific Rim Research Libraries Alliance) —2017年総会参加報告—『東北大学附属図書館調査研究室年報』2018(5). pp.153-158.  
2 小林真理絵「環太平洋研究図書館連合(PRRLA:Pacific Rim Research Libraries Alliance) — 2018年総会参加報告 —」『東北大学附属図書館調査研究室年報』2019(6). p.91-98.  
3 菊地良直「環太平洋研究図書館連合(PRRLA:Pacific Rim Research Libraries Alliance)— 2019年総会参加報告 —」『東北大学附属図書館調査研究室年報』2020(7).pp. 127-130.

4 PRRLA(環太平洋研究図書館連合)総会2022での紹介動画 Introductory Video in 2022 PRRLA ANNUAL MEETING[Tohoku Univ. Library] <https://www.youtube.com/watch?v=Cgdx48elvEc> (閲覧日 2024.1.15)  
5 PRRLA Annual meeting 2023 Shenzhen <https://pr-rla.org/annual-meetings/2023-shenzhen/> (閲覧日 2024.1.15)  
6 中山大学News Sun Yat-sen University held the Pacific Rim Research Libraries Alliance (PRRLA) 2023 Meeting 2023.10.22 <https://www.sysu.edu.cn/newsen/info/1691/77582.htm> (閲覧日 2024.1.15)

## 2. 総会での参加館の発表

PRRLAの総会は、毎回テーマが設定されており今回のテーマは、「Preservation, Development and Discovery of Archives and Special Collections in PRRLA Libraries. (PRRLA図書館におけるアーカイブと特別コレクションの保存、開発と発見)」であった。基調講演と、4つのテーマで17の報告が行われた。

これまで、デジタルコレクションといえば、電子化することそのものが課題であったと思う。今回の各館の発表を通して、電子化されたものをどう活用するか、というフェーズに入ってきていることを、強く感じた。第3節で紹介する、本学の「総合知デジタルアーカイブ」も、いわゆるデジタルヒューマニティズ分野での活用を想定しており、各館の取り組み、視点は、大変参考になった。

以下各講演のタイトルと概略を紹介する。

10月18日

Keynote Speech: Challenges and Opportunities: The Development of China's Research University Libraries over the Past Decade

中国図書館学会の副会長でもある中山大学の程煥文(Cheng Huanwen)教授により、中国の42の研究図書館について統計データを用いて解説された。蔵書冊数、受入冊数等の基本統計はもとより、学生10人あたりの職員数、予算、紙の雑誌の資料費、電子媒体の資料費などを比較した報告があり、大変興味深かった。

Panel 1: Showcasing Expertise and Experience in Sharing and Unlocking the Potential of Scholarly Content of Archives and Special Collections

① Beyond the Digitisation of University Collection, Rebuilding Poly U Old Campus Virtually with Emerging Technology<sup>7</sup>

1937年に創立した香港官立高級工業學院を母体として、

何度か組織の変遷を経ながら、昨年創立85周年を迎えた香港理工大学のキャンパス変遷を、収集された写真データを参考に3Dモデルで再現し、動画にして紹介した<sup>8</sup>。

② Unlocking East Asian Special Collections and Archives in Berkeley: Implications for Pacific Rim Research Library Services (online)

カリフォルニア大学バークレー校の東アジアコレクションから、中国語の映画雑誌のコレクションを紹介。雑誌の表紙から社会的時代背景を探る発表は、大変興味深かった<sup>9</sup>。

③ Archiving Hong Kong Literature in the Digital Age: The Chinese University of Hong Kong Library Experience

香港中文大学の、「香港文学資料庫」の紹介。香港を代表する作家の資料を収集している。データベースの構築だけでなく、企画展、常時学生が香港文学に触れることができるコーナーの設置など、展示にも力を入れている。企画展は、3Dで疑似体験できるような保存を行っている<sup>10</sup>。

④ Who's Who of Chinese Students Abroad (Pre-1949): Uncover Hidden Names from National Archives and Records Administration, USA

1949年以前に外国で学んだ中国人学生の履歴を公文書館の資料などから明らかにする国際プロジェクトの紹介。将来的に、公開される予定。次の調査は、日本、ヨーロッパで行う予定とのことで、当館が紹介した魯迅の例について、大変興味を持っていただいた。

Panel 2: Exploring the Strategic Opportunities of Digital Conservation and Extending the Engagement and Use of Scholarly Content Across Archives and Special Collections

⑤ Preserving the Past: Starting a Digital Preservation Service for the Future

7 「Digitisation」は、プログラム等の表記のママ

8 Pao Yue-Kong Library Digital Collection: <https://dc.lib.polyu.edu.hk/> (閲覧日 2024.1.15)

9 University of California Berkeley Library Digital Collection: <https://www.lib.berkeley.edu/find/digital-collections> (閲覧日 2024.1.15)

10 香港文学資料庫: [https://hklib.lib.cuhk.edu.hk/archiving\\_hklib/](https://hklib.lib.cuhk.edu.hk/archiving_hklib/) (閲覧日 2024.1.15)

シンガポール経営大学は 2000年に開学した新しい大学である。大学のリポジトリ構築については、図書館が主導して行っている。リポジトリ Ink (Institutional Knowledge)<sup>11</sup>は大学の研究成果のみならず、文化を保存するものだと思っている。論文のほか、研究データも公開している。最近では、オーラル・ヒストリーの採録を始めている。

#### ⑥Carpentries on the US Pacific Coast

カリフォルニア大学サンタバーバラ校のカーペントリー<sup>12</sup>の取り組み。プログラム言語のワークショップからPCの修理といったことまで行っている。コロナ禍でのオンライン開催を挟んでも、ワークショップは年々人気を増しており、カリフォルニア大学の他キャンパスでも実施されるようになってきた。教える側の質の保証も重要になってきている。

#### ⑦Accessing university information: the journey of the University Archives in Hong Kong Baptist University Library

香港バプティスト大学のリポジトリ Library Archival Collections<sup>13</sup>は、昨年リニューアルを行った。1956年に大学が創設された初期の段階から、図書館は大学の刊行物を収集してきた。なかでも2,000点を越える、ephemeral items (儂い資料)、リーフレットや切り抜きのような、なくなってしまうがちなものの再整理と電子化を行った。システムリニューアルにより、図書、儂い資料とそれぞれ検索していたものを、まとめて検索できるようになった。

#### ⑧Pilot Virtual Reading Room Service

シドニー大学は、キャンベラ大学との共同で、貴重書のバーチャル閲覧室<sup>14</sup>の取り組みを行っている。これは、昨年度

のKarl Lo Award<sup>15</sup>を受賞した。コロナ禍で直接来館が難しくなったことに伴い、貴重書をオンラインで見せる取り組みを始めた。利用の希望から、資料調査、閲覧、資料を元の書架に戻すまでの、一連のプロセスを整理して実施している。

10月19日

Panel 3: Reflecting on the Strategic Role and Opportunities for PRRLA Libraries to Lead in the Preservation and Development of Archives and Special Collections

#### ⑨Protection Practice and Intelligent Exploration of Rare Collections in Sun Yat-sen University Library

ホスト校中山大学図書館の発表。37万点所蔵している古典データベースの紹介があった。拓本のデータベース<sup>16</sup>は、通常の文字による検索のほか、拓本の1文字ずつをバラバラに検索し、文字の画像をクリックすることでまたもとの拓本の画像に戻ることができる機能の紹介があった。

#### ⑩ Driving the Creation of Special Digital Collections in Collaboration with Researchers

南方科技大学図書館は2011年に開館した。中国では2015年から、学内の資料の(電子的な)保存が、図書館の役割として定められている。2021年からは更に、デジタルキャンパスの推進も謳われている。Digital Resources Management Cycleは重要であると捉えて、活動している。4つのコンテンツを運営しており、特に海洋学のデータベースは、教員と緊密な関係を築いた上で構築中である<sup>17</sup>。

11 Singapore Management University Library Ink (Institutional Knowledge): <https://ink.library.smu.edu.sg/> (閲覧日 2024.1.15)

12 University of California Santa Barbara Carpentries: <https://www.dfss.ucsb.edu/facilities-management/services-funding/carpentry> (閲覧日 2024.1.15)

13 Hong Kong Baptist University Library Library Archival Collections: <https://library.hkbu.edu.hk/collections/special-collections-archives/> (閲覧日 2024.1.15)

14 University of Sydney Library Virtual Reading Room: <https://www.library.sydney.edu.au/collection>

[s/rare-books/virtualreadingroom.html](https://rare-books/virtualreadingroom.html) (閲覧日 2024.1.15)

15 Karl Lo Awardは、PRDLAの設立に多大な貢献があったカリフォルニア大学サンディエゴ校のKael Loのリーダーシップを記念して、2007年に設立された。PRRLA内の図書館協力または、電子図書館を主題とした優れた取り組みに授与される。<https://pr-rla.org/organization/karl-lo-award/> (閲覧日 2024.1.15)

16 中山大学図書館 館蔵資源>特色館蔵 >碑帖拓本: <https://library.sysu.edu.cn/basic/3741> 碑帖数据库のリンクがあるが、アクセスできない模様。(閲覧日 2024.1.15)

17 南方科技大学图书馆数字特色资源平台: <https://media.lib.sustech.edu.cn/#/> (閲覧日 2024.1.15)

①Establishing the Sierra Nevada/Central Valley Research Archive

カリフォルニア大学マーセッド校は、シエラネバダ山脈とサンホアキン渓谷に関連するアーカイブ資料を保存し、研究者がデジタルで利用することを目指している。米国国立公園(ヨセミテ, セコイア, キングスキャニオンの各国立公園)が保存する資料を、電子化してデータベースを構築した<sup>18</sup>。100年前のパノラマフォトを元に、現在と比べて、昔の地形を復元するプロジェクトや、2018年のカリフォルニア山火事災害でレスキューした資料の電子化も行っている。

②Organizing and Revealing of Gu Jiegang's Manuscripts and Academic Archives

北京大学の発表。同大学出身で、北京大学ほか、中国各地の大学で教鞭をとった歴史学の大家、顧頡剛(1893-1980)の蔵書コレクションの寄贈を受けた。2023年3月に寄贈を受け、顧頡剛生誕130年の日である5月8日から記念展<sup>19</sup>を開催した。これから目録整備、電子化を行っていく。図書のほか、手紙や原稿などさまざまな形態の資料がある。これらは、オープンソースのArchives Spaceを用いて整理を行う予定である。

③Theory and Practice of the East Asian Library: A Marginal Science

Karl Lo Awardを受賞した「The Theory and Practice of the East Asian Library : A Marginal Science<sup>20</sup>」についての著者による解説 (online)。

Panel 4: Exploring New and Sustainable Professional Development Opportunities to Future-proof the Next Generation of Archive and Special Collections Specialists in PRRLA Libraries

④Making the Invisible Visible: Digital Gems @ NUS

シンガポール国立大学は、1905年に設立され、中央図書館と6つの分館がある。資料のデジタル化は2000年頃から始まったが、2019年にそれまでに電子化されたコンテンツを統合的に検索できるNUS Gems<sup>21</sup>を公開した。コレクションコンテンツは、授業や研究のほか、出版物、展示等に活用されている。

⑤Cases of Improvement of Subscription Adequacy Evaluation and Evaluation Method for E-resources and Journals Subscriptions at Seoul National University Central Library

ソウル大学校<sup>22</sup>の雑誌のコレクション評価についての発表。購読雑誌について、研究者アンケート7割、学生のアンケート2割、費用対効果1割の重み付けで、評価を行ってきた。加えて、学部ごとの評価を、研究者アンケートに加えることにした。このことによって、学部で必要な雑誌を取りこぼさないようにしている。今回、デジタルアーカイブではない発表は、この発表のみで、多くの質疑応答がされた。

⑥Tohoku University Convergence Knowledge Digital Archive

本学の発表。次節参照。

⑦Exploring the Application of Digital Expression from Cultural Perspectives—A casestudy on Rubbings at Zhejiang University

1897年に設立された浙江大學は、中国で最も古く、大きな大学の一つである。本館と10の分館があるが、今回は、Ancient Books Library(古籍館)<sup>23</sup>の拓本のコレクショ

18 University California Merced Library Special Collections: <https://library.ucmerced.edu/collections/special-collections> (閲覧日 2024.1.15)

19 北京大学図書館 先生之风 山高水长——纪念顾頡刚先生诞辰130周年暨顾頡刚先生手稿捐赠展”开展仪式举行: <https://www.lib.pku.edu.cn/2xxzzfw/26xwgg/26lxwlb/bd6323.htm> (閲覧日 2024.1.15)

20 Amazon: <https://www.amazon.co.jp/Theory-Practice-East-Asian-Library/dp/1527592014> (閲覧日 2024.1.15)

21 National University of Singapore Collections: <https://nus.edu.sg/nuslibraries/collections/special-collections> (閲覧日 2024.1.15)

22 Soeul National University Library: <https://lib.snu.ac.kr/?lang=en> (閲覧日 2024.1.15)

23 浙江大学图书馆古籍馆: [https://libweb.zju.edu.cn/zjg\\_xqgig\\_56665/list.htm](https://libweb.zju.edu.cn/zjg_xqgig_56665/list.htm) (閲覧日 2024.1.15)

ンについての発表だった。甲骨文字など表面が凹凸したものを電子化してきた技術を、拓本の電子化にも活かしている。デジタル化、保存学だけではなく、拓本を知ってもらうための活動も重要ととらえ、様々なワークショップを行っている。2022年のKarl Lo Awardを受賞した。

### 3. 本学の発表

本学は、「総合知デジタルアーカイブ」について発表した。

狩野文庫や漱石文庫、和算のコレクションを公開している「東北大学デジタルコレクション」<sup>24</sup>を大幅アップデートする「総合知デジタルアーカイブ」を、来春の公開を目指して、目下構築作業中である。これまでのデジタルアーカイブは、電子化することに注力されてきたが、「総合知デジタルアーカイブ」は、その電子化された資料の活用にも注意を向けながら設計し、運用していく予定である。

図書館単体のアーカイブではなく、東北大学統合のアーカイブと位置づけ、将来的には、図書館、史料館、総合博物館、各部局が個別に運営しているデジタルアーカイブを1つのプラットフォームから使えるようにする。リリース時には、図書館と史料館のコンテンツから公開を始める予定である。図書館が現在公開している古典籍を中心とした資料群に加え、史料館が2021-2022年に電子化した8万点の学生運動の資料についても同時に公開される予定である。

学生運動資料は、チラシや会議記録などがある。これらの資料は、デジタル化後、日本学国際共同大学院<sup>25</sup>の研究クラスターにおいて、Long1960sに関するローマ大学との共同研究で活用される予定である。

また本アーカイブは本年10月1日に発足した統合日本学

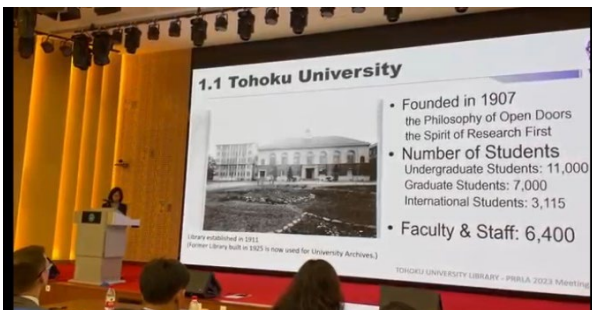


図2 発表中の筆者

研究センターとの連携も予定されている。

アーカイブの収録データは、今後、テキストのOCR化、手書き文字の画像検索などの機能を増強し、さらに多角的な研究材料として活用されることが期待される。

発表後は、システムに関する質問が寄せられた。また、データベースの統合には、著作権に注意を払うべきと、同業者ならではのアドバイスも頂いた。

### 4. 見学

#### 4.1 中山大学深圳キャンパス図書館

中山大学<sup>26</sup>は1924年に孫文(孫中山 1866-1925)によって設立された国立広東大学を前身とし、孫文死後1926年に中山大学と改称した。2001年に中山医科大学と合併し、現在は70学部を擁する中国有数の総合大学となっている。66,000人ほどの学生が学んでいる。1952年から広州キャンパスに展開してきたが、本年6月から深圳キャンパスが新たに運用されている。

中山大学の図書館は、広州キャンパスに3つ、珠海キャンパスに1つ設けられていたが、加えて深圳図書館が、本年10月6日に開館した。蔵書は、全館で1,000万冊、古典籍は37万点を所蔵しているとのことである<sup>27</sup>。

深圳図書館は、地下には今回の会場となった講堂がある。地上7階建てで中央に大きな吹き抜けがある。500万冊が収蔵可能で4,000席が用意されている。

全体的に、重厚な什器が配置されている一方、顔認証の

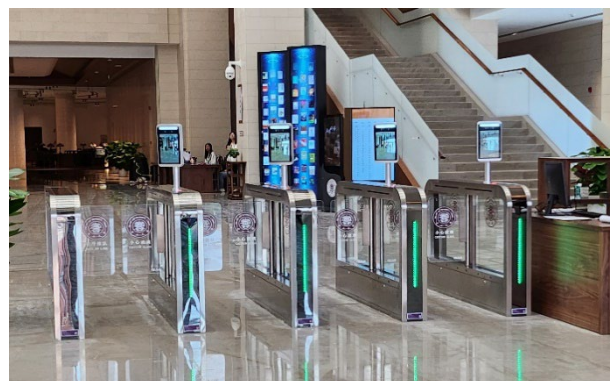


図3 中山大学 深圳図書館 顔認証カメラ付き正面玄関ゲート。奥の2本のパネルは、電子ブックを展示するサインエージ

24 東北大学デジタルコレクション [https://www.i-repository.net/il/meta\\_pub/G0000398tuldc](https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398tuldc) (閲覧日 2024.1.15)

25 東北大学日本学国際共同大学院 <https://gpjs.tohoku.ac.jp/> (閲覧日 2024.1.15)

26 中山大学 <https://www.sysu.edu.cn/> (閲覧日 2024.1.15)

27 中山大学図書館 <https://library.sysu.edu.cn/> (閲覧日 2024.1.15)

ゲートや、RFICタグによる自動貸出返却装置、予約本の取り置きロッカーなど、最新の機器で運用されていることに驚いた。電子ブックをKindleごと貸し出すロッカーもあり、このロッカーも顔認証で利用する、ということだった。

表面ガラスが、タッチパネルのモニターになる展示ケースがあり、実際に電子化された古典資料が解説とともに表示されており、それをめくる体験もでき、興味深かった。

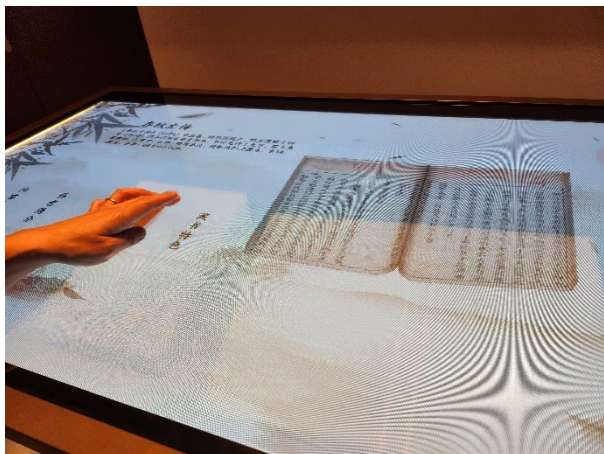


図4 中山大学 深圳図書館 タッチパネルの展示ケース

#### 4.2 南方科技大学図書館

南方科技大学は、同じ深圳市内にある理工系の大学で2011年に開学した。現在は、34の学部とセンター等があり、1万1,200人ほどの学生の半数以上は大学院生という研究センターの大学である<sup>28</sup>。図書は30万冊ほどの所蔵であるが、64万点の電子ブック、8万タイトルの電子ジャーナルが利用できる<sup>29</sup>。3つある図書館のうちの2つを見学した。

1つ目の一丹図書館は、ラーニングコモنزのカタログから抜け出たような、ポップで多様な種類の座席が配置されている図書館だった。1,000席ほど設置されている。2020年12月の開館とのことである。地上5階建で、1階部分は、24時間利用できるようになっている。入退館ゲートは、中山大学と同様に、顔認証のゲートとなっていた。グループ学習室でも、各座席でも多くの学生が熱心に勉強をしていた。移動中のバスの車窓からは、キャンパス内にいくつも学生寮があることがわかり、そのような環境で、学生が勉学に励んでいるらしいことがみてとれた。

もう一つの涵泳図書館は、3つの中では最も小さいが、古

典籍を扱っているとのことだった。ウェブサイトによれば、座席は300席ほど、とのことである。一丹図書館よりは落ち着いた明るい木目調の仕器が多かった。また、所蔵資料の図版からデザインされたというタペストリーが掛けられていた。

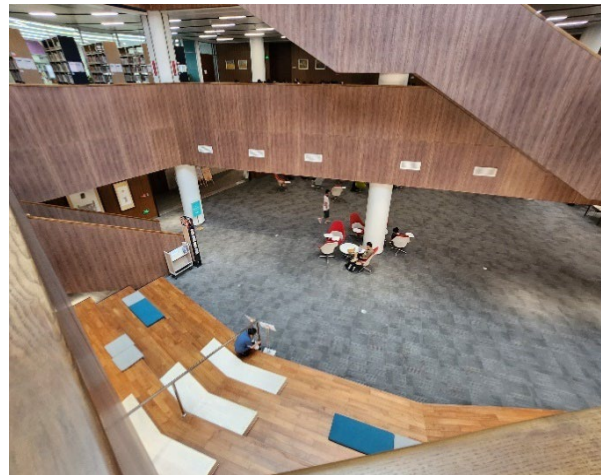


図5 南方科技大学 一丹図書館 吹き抜けの階段状閲覧席

#### 謝辞

2023年10月の時点で、中国政府はコロナ政策を継続しており、短期でもVISAなし渡航が認められていなかったのので、渡航には大変煩雑な手続きを要した。社会的な情勢からも、最後まで、実際に対面で参加できるかの判断は難しかった。書類の手配等について、中山大学図書館の事務局の方々、本学川内キャンパス事務センターの菊地晋哉主任には、とりわけお世話になったので、ここに御礼申し上げたい。

筆者の発表内容については、総合知デジタルアーカイブの準備に関わってこられた本学史料館加藤諭准教授の資料を参考にさせていただき、半澤智絵情報サービス課長、佐藤事務部長と相談させていただいた。また、大隅典子館長にも、プレゼンテーションを見ていただき、アドバイスを頂いた。お忙しい中、時間を割いてご助言いただいた皆様に、感謝申し上げます。

また、一週間もの留守の間に、業務を支えてくださった、閲覧係、情報サービス課の各位にも感謝をして、稿を閉じたい。

わたなべ あいこ、情報サービス課閲覧係長

28 南方科技大学 <https://www.sustech.edu.cn/> (閲覧日 2024. 1. 15)

29 南方科技大学図書館 <https://lib.sustech.edu.cn/main.htm> (閲覧日 2024. 1. 15)